



アドバンス助産師 1万人を超える
新たに5,440人認証

助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度（CLoCMiP<クロックミップ>レベルⅢ認証制度）の認証機関である一般財団法人日本助産評価機構は、2016年12月24日付で第2回の認証結果を同機構ホームページ（<https://jime2007.org/>）で公表した。

2016年度の認証者は5,440人で、初めての認証となった15年度に引き続き5,000人を超える助産師が「アドバンス助産師」として認証された。昨年度の5,562人と合わせると合計1万1,002人で、就業者に占める割合は32.4%となった。

同機構では、1月中旬以降に、認証書・認証カード・認証バッジの送付を行う。また、認証された「アドバンス助産師」の公表は、3月に本年度分を同機構ホームページに追加掲載する予定。

認証制度は、17年度は環境整備や周知徹底のため新規の申請受け付けを休止し、18年度から再開する。

**第9回 WLB大賞
京都武田病院が優秀賞を受賞**

2016年12月13日、第9回ワークライフバランス大賞（日本生産性本部ワークライフバランス推進会議主催）の表彰式が都内ホテルで開かれた＝写真。同賞は、ワーク・ライフ・バランス（WLB）実現に関して他の手本となる取り組みを行っている企業・組織を表彰するもので、大賞2件に次ぐ優秀賞（5件）に、医療法人社団恵心会京都武田病院（京都市）が輝いた。

同院は、09年より取り組みに着手。働きやすい職場づくりには、職員とその家族が幸せになることが重要との考えの下、心身両面の負担軽減を狙いに、パートナーシップ・ナーシングシステムの導入、新人職員研修やクリニカルラダーの整備による中長期的視野に立った職員育成、休暇制度の充実や休暇取得の推奨などに取り組んできた。特に心的負荷の高い医療現場であることからメンタルヘルスに気を配り、職員の高ストレス割合の減少や離職防止につなげた点が評価された。

**ICN理事
活動報告 NO.13**

国際看護師協会（ICN）理事の任期もあと半年となった。近ごろは、5月末にスペイン・バルセロナで開催される4年毎大会での会員協会代表者会議（CNR）に向け、さまざまな課題に取り組んでいるところである。

2016年11月には、タイ・バンコクで理事会が開催された。ちょうどプミポン国王が亡くなられた後だったので、黒い服を持っていくようICN本部から事前に連絡があった。行ってみて驚いたのは、道行く人誰もが黒い服を着ていたことである。ホテルの従業員は皆、腕に黒いリボンをつけていたし、ショーウィンドーのマネキンも全て黒い服を着せられていた。街の至る所に、国王の写真や祭壇が設けられていた。

理事会では、これまでの集大成

バンコクで開催した理事会（中段右から2人目が金井第一副会長）

ともいべき、13年のCNRで採択された課題に関する取り組みの評価、および今後の発展に向けて熱い討議がされた。やはり一番の話題はお金である。貴重な会費をどのように活用するか、会費以外の収入をどのように拡大させるか。特に、紛争や内戦など、さまざまな状況で会費を支払うことが困難な協会が増加している現状がある。「連帯性」を鑑み、そのような協会をいかに支援していくか第一副会長としての責任を感じるところである。

（ICN 第一副会長 金井 Pak 雅子）

ルヘルスに気を配り、職員の高ストレス割合の減少や離職防止につなげた点が評価された。

訂正

本紙2016年12月号2面「専門看護師認定・再認定・更新審査」の記事中の認定更新審査の1回目更新者

を169人に、2回目更新者を36人に訂正します。

また、2016年7月号付録「看護職賠償責任保険制度（平成28年度）」12面の「保険会社破綻時の取扱い」の記載内容の一部に誤りがありました。保険会社から訂正文が加入者自宅宛に送付されます。

第9回 WLB大賞 京都武田病院が優秀賞を受賞

2016年12月13日、第9回ワークライフバランス大賞（日本生産性本部ワークライフバランス推進会議主催）の表彰式が都内ホテルで開かれた＝写真。同賞は、ワーク・ライフ・バランス（WLB）実現に関して他の手本となる取り組みを行っている企業・組織を表彰するもので、大賞2件に次ぐ優秀賞（5件）に、医療法人社団恵心会京都武田病院（京都市）が輝いた。

同院は、09年より取り組みに着手。働きやすい職場づくりには、職員とその家族が幸せになることが重要との考えの下、心身両面の負担軽減を狙いに、パートナーシップ・ナーシングシステムの導入、新人職員研修やクリニカルラダーの整備による中長期的視野に立った職員育成、休暇制度の充実や休暇取得の推奨などに取り組んできた。特に心的負荷の高い医療現場であることからメンタルヘルスに気を配り、職員の高ストレス割合の減少や離職防止につなげた点が評価された。